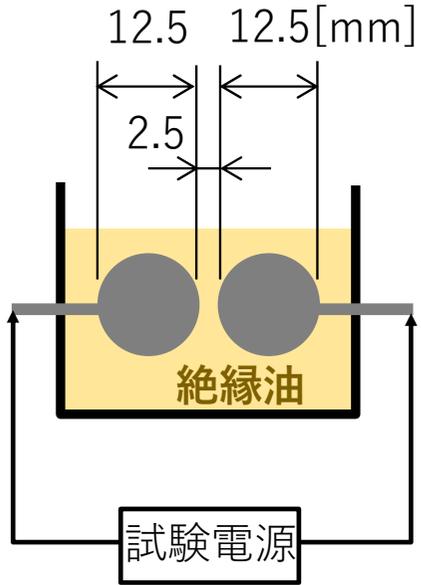


変電 (13) 《油入変圧器の劣化診断》

- ・絶縁油耐圧試験 : 採取した絶縁油の中で直径12.5[mm]の球状電極を2.5[mm]の間隔で対向させて測定した絶縁破壊電圧から判定
- ・絶縁油酸化度試験 : 絶縁油1[g]を中和させるために要するアルカリ成分KOHの分量 (酸化度) から判定 (新油は透明度が高い黄色で、酸化に従って茶褐色になって透明度が下がる。酸化度が0.2を超えるとスラッジが生じ始める。スラッジは油の対流を阻んで劣化を促進させる)
- ・含有水分測定 : 水分測定試薬又は水分測定装置で測定した絶縁油の含有水分から判定



■ 定格電圧 11~77[kV]以下の変圧器における良否判定

絶縁破壊電圧[kV]の判定		酸化度[mgKOH/g]の判定		水分[ppm]の判定	
30以上	・・・新油	0.02	・・・新油	40以下	・・・良好
20以上	・・・良好	0.2以下	・・・良好	40~50	・・・要注意 (ろ過又は交換)
15~20	・・・要注意 (ろ過又は交換)	0.2~0.4	・・・要注意 (ろ過又は交換)	50以上	・・・不良 (至急交換)
15未満	・・・不良 (至急交換)	0.4以上	・・・不良 (至急交換)		